

(熊本県立東稜高等) 学校 令和 2 年度 (2020 年度) 学校評価表

1 学校教育目標
心身を鍛え 節度を重んじ 知能を磨き 徳性を涵養し 国家社会の有為な形成者を育成する

2 本年度の重点目標
1 生徒指導の充実 (生活習慣の確立、規範意識の醸成、自己効力感の向上、職員間連携)
2 学習指導の充実 (教科の専門性の向上、実践的授業力の向上、自学力の育成)
3 進路指導の充実 (系統的指導の充実、自己実現のための基盤づくり)
4 学校環境の整備 (物的環境の整備、人的環境の整備)
5 豊かな人間性の涵養 (個性の伸長、多様性の理解と共生、読書の習慣化)

【A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である】

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校改革の推進	本校教育に対する生徒・保護者の満足度の向上	評価アンケート「入学に関する意識項目」上位評価割合 80%以上 [生徒]、90%以上 [保護者]	・各分掌部、学年、管理職間のコミュニケーションによるチームワークの向上 ・職員間の学び合いの機会の増加と各種指導力の向上	C	評価アンケート「入学に関する意識項目」上位評価割合 80%以上 [生徒]、90%以上 [保護者]が目標だったが、結果は [生徒] が 78%、[保護者] が 87% で目標を達成できなかった。
		業務改善	時間外勤務の縮減 (目標値：前年同月比超過勤務時間平均の 3% 減 / 全体)	・学校閉庁日の設定 ・超過勤務時間の削減目標の設定 ・業務削減アンケートに基づいた業務の整理、削減	A	行事の精選や定時退庁の呼びかけ等を行い、時間外勤務時間が縮減された。昨年度との比較では、1 月までで時間外勤務時間が約 27% 縮減された。
	開かれた学校づくり	本校教育に対する保護者の理解、関心の向上	評価アンケート「学校、家庭の連携、意思疎通に関する意識項目」上位評価割合 90% 以上 [保護者]	・Classi を活用した学校、生徒、保護者 3 者間の情報共有と連携推進	C	学校評価アンケート「学校、家庭の連携、意思疎通に関する意識項目」(保護者) 上位評価割合 90% 以上が目標であったが、結果は 82% で目標を達成できなかった。
		本校教育に対する地域住民、中学校生徒・保護者の理解、関心の向上	評価アンケート「保護者・地域及び中学校へへの情報発信」上位評価割合 90% 以上 [保護者 各	・学校HP更新の迅速化と更新頻度の増加によるHP閲覧数の増加 ・学校HPの活用	A	学校評価アンケート「保護者・地域及び中学校への情報発信」(生徒及び各学年、保護者) 上位評価割合 90% 以上であったが、結果は生徒 92% (1 年 95%、

			学年]、[生徒・地域及び中学校への情報発信」上位評価割合 90%][生徒] ・HP アクセス数 600 件/日	・東稜ニュースの発行と配付		2 年 90%、3 年 93%) 保護者 91%で目標を達成できた。
学力向上	授業を主体とした学力向上の取組	授業改善と授業の充実（各教科共通の授業技術と教科の専門性の向上）	評価アンケート「授業に関する評価項目」最上位評価割合 20%以上[生徒]	・東稜スタンダードの策定と活用とブラッシュアップ ・公開授業の厳格かつ効率的実施 ・生徒授業評価アンケートデータ、職員の授業相互評価データ、学習時間データ、成績データなどのクロス分析	A	学校評価アンケート「授業に関する評価項目」（生徒）最上位評価割合 20%以上が目標であったが、結果は 24%で達成できた。
	自学力の醸成	生徒自らが学ぶ姿勢の確立及び学びの力の向上	宅習時間の増加（目標値：全学年過去 5 年間の平均宅習時間当該学年比 3%増加）	・Classi を利用した宅習時間調査による学習状況の把握と調査結果の活用 ・Classi の個別コメント欄に複数の職員が記入することによる宅習状況の個別指導 ・与える課題の工夫・検証、事後指導の充実	A	1 年生で 9%、2 年生で 20%、3 年生で 23%増となった。今年度は 4 月・5 月が休校となり、遅れを取り戻そうという意識があった点の影響が大きいと考えられる。また、Classi の有効活用ができた点が高く評価できる。現 3 年生は入学当初から Classi を導入した学年である。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	キャリア意識の向上と意欲的なオンラインを活用した体験学習への参加	・今年度のインターンシップは、コロナウイルス感染の危険性を考え実施しない。 ・オンラインオープンキャンパスへの積極的参加、オンライン夢ナビの大学動画	・来年度にインターンシップを実施できるか、学年部と相談して準備する。 ・オープンキャンパスの積極的広報と積極的参加の推奨 ・総合的な探究の時間の再編、週一回の情報	B	「進路について日頃から考えており、分からない点は資料で調べたり先生に聞くようにしている。」項目 3 の肯定的回答は全体で 70%、2 年前から 100 名肯定回答が増加している。1、3 年生は 3 年間で最も肯定的に捉えており、3 年生は共通テスト初年度で進路意識は昨年度も高かった。1

			配信を利用して、進路意識の向上を図る。目標は、学校評価アンケート「進路意識、進路活動、職員への進路相談」上位評価割合 70%以上[生徒]	ウォッチング内容向上により進路学習の充実を図る。 ・新調査書の進路諸活動記録のポートフォリオ化を促進する。		年生は休校後の総合的探究の時間、情報ウォッチングの積極的な取組が高評価材料と判断する。▶「進路のしおり等の活用」項目は肯定的回答が 84%と 3 年間で最もよく、1.2 年生では約 80%が肯定的に活用していると回答している。
	進路目標の達成	生徒を集団と捉える指導と個に応じた組織的な進路指導	熊大等の大学進学者を複数出すことと国公立大合格 70 名以上 ・熊大等の国公立大学や難関関東私大を合格 5 名以上 ・県内国公立大学合格 30 名以上（熊本大学 5 名以上、熊本県立大学 25 名以上）	・生徒の進路希望、適性等についての職員共通理解の促進 ・進路行事の精選、時間割クラス編成を工夫し効果的課外実践 ・各学年部と進路指導部の先生方のタイアップにより、数年先を見越した高学力生徒の学力保障 ・二者面談、三者面談の充実	C	共通テストを利用した入試結果は 3 月中旬以降に全貌が判明するので予想を含めた判断をする。▶熊本大学は推薦Ⅱを含め合格ラインを超えている者は 4 名、ボーダーラインの者が 1 名で目標の 5 名到達すると判断する。▶熊本県立大学には既に 9 名が合格している。合格ラインを超えている者は 10 名で、目標の 25 名近く合格すると予想し、県内国公立大学合格者総計は 30 名程度の目標とした数字は達成すると判断する。▶県外国公立大学は例年より少なく、国公立大学合格者総計は 55 名程度で目標に達しないと予想するが、3 学年部の先生方の 3 年間の生活指導・学習指導・進学指導は評価されるべきものだと判断する。
生徒指導	規範意識に関する指導の充実	東稜高校 5 つの行動目標を基本とした規範意識の育成	・評価アンケート「決まった時間の運動、勉強」上位評価割合 85%以上[生徒] ・評価アンケート⑩「交通ルール」⑪「言葉遣い」⑫「服装・挨拶」各項目の上位評価	・部活動時間確保、下校時間の定着、家庭でのスマホ利用の改善 ・服装頭髪指導、交通指導、校則指導の徹底 ・ホームルームや授業を通しての挨拶指導	B	・「決まった時間の運動、勉強」上位評価割合は 80%であった。目標値は下回ったが、年々向上している。放課後の時間の使い方や家庭学習時間の確保が課題である。 ・⑩「交通ルール」98%、⑪「言葉遣い」97%、⑫「服装・挨拶」92%であった。生徒の意識の高

			割合95%以上 [生徒] ・特別指導件数の削減(目標値:前年度減)	等の徹底		さと実態に乖離がある。 ・特別指導件数は3件であり、前年度から50%減となり、全体的には落ち着いている。
	情報モラル教育の充実	・スマートフォンの適切な使用(使用時間含む) ・不適切な使用で起こる危険性の理解	・平日のスマホ使用時間1時間未満の生徒の増加(目標値:全校生徒の35%以上) ・校内での不適切な使用で指導される生徒数の学年進行での減少	・情報モラル教室、職員研修の実施 ・実態調査アンケートの実施と携帯・スマホ宣言との比較 ・他分掌との連携による対策(スマホ通信の発行・スマホダイエットの実施)	B	・学校評価アンケート「情報モラル」(生徒)に関する項目で、最上位評価項目33%、上位評価項目91%となり、モバイルの適正利用の推進に関して、他部署と連携して取り組むことが出来た。その取組で、賞も得た。 ・平日のスマホ使用時間1時間未満の生徒の増加については、目標値35%に対して結果は、30%と目標を達成できなかった。 ・スマートフォン等の不適切な使用による指導は28件(昨年54件)と減少した。学年進行でも減少している。
	交通安全教育の徹底および充実	・交通法規の遵守及びマナーの育成 ・交通事故防止のための危険予測能力の育成 ・自転車盗難対策 ・単車通学生に対する指導の充実	・交通事故件数の削減(目標値:年間35件未満) ・二重ロック率の向上(目標値:平均施錠率95%以上)	・危険箇所での交通指導の充実 ・交通講話の計画・実施 ・定期的な二重ロック点検の実施 ・単車通学生実技講習会・単車通学生集会の実施 ・単車通学生違反者指導の充実	B	・交通事故は33件(自損事故9件を含む)発生。件数としては減少したが、大きな事故も発生している。交通マナー等に関して外部から厳しい声も多い。 ・二重ロックは98%程度の施錠率。 ・単車実技講習会、単車通学生集会を行ない、交通安全の啓発を行った。
生徒の自主性の涵養	自主的・主体的な活動の推進	学校行事やボランティア活動への積極的参加	・ボランティア活動による奉仕の精神の育成。(目標値:参加者数昨年度比75%以上、延べ195名以上)	・学校行事、部活動の意義の理解と自己効力感を高める取り組みの実施 ・生徒会、各種委員会活動の	B	・各種行事が中止になる中、東颯祭(文化祭)やクラスマッチが感染対策を行ない実施できた。行事ができたことへの感謝の言葉を多く聞くことができた。 ・校外でのボランティア

			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした生徒主体の取り組みの確立 	充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの場の提供 		ア活動は中止ばかりであったが、総務部主催の園芸ボランティアや豪雨災害での募金活動などの校内で行ったボランティアにのべ239名が参加した。
人権教育の推進	人権尊重の精神に立った学校づくり	知的理解を深め人権感覚を育成する指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の基本的認識の深化と実践的指導力の向上 ・評価アンケート「HR、授業にける人権教育指導」上位評価割合90%以上[職員] ・生徒の知的理解と人権感覚の向上 ・評価アンケート「人権教育における学び」上位評価割合90%以上[生徒] 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育職員研修の実施 ・教職員の振り返りチェックの実施 ・人権教育LHRの実施 ・「人権だより」の発行 ・人権が尊重される授業づくりの推進 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のアンケート上位評価割合は、94%で目標を上回った。目標達成については、教職員の振り返りチェックを実施したことにより、自らの人権感覚を磨き、生徒に人権の大切を伝える意識が向上した成果だと言える。 ・生徒のアンケート上位評価割合は、86%と目標を下回った。目標達成に至らなかった理由としては、人権教育講演会が隔年開催となり、実施できなかったことが要因と考えられる。
	人としての在り方・生き方に対する自覚の深化	互いを尊重し、良好な人間関係を構築するための生徒の意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の課題を受容し、協働で解決する能力を備えた集団の育成 ・評価アンケート「クラス雰囲気有意義な学校生活」上位評価割合90%以上[生徒] 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の交流を促す生徒会を中心とした学校行事の実施 ・SST（ソーシャルスキルトレーニング）の実施 	B	アンケート上位評価割合は92%で目標を上回った。目標達成については、コロナ禍の中で生徒会を中心に文化祭やクラスマッチなど学校行事を開催したことより、交流が促進されたと考えられる。
いじめの防止等	命を大切にすることを育む	心のきずなを深める教育の充実	生徒の自他を大切にする心の涵養 評価アンケート「クラス雰囲気有意義な学校生活」の上位評価割合90%以上[生徒]	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止教育LHRの実施 ・心のきずなを深めるための標語作品募集 ・心のきずなを深めるための標語優秀作品の紹介 	B	アンケート上位評価割合は92%で目標を上回った。目標達成については、心のきずなを深めるための標語募集や優秀作品に触れることで、自他を大切にすることが涵養されたと感られる。
		いじめの未然防止及び	評価アンケート「いじめに	・心のアンケートの実施(年2		「いじめにあった経験」経験ありの割合は

		早期発見・早期解消	あった経験」経験ありの割合 15%未満 [生徒]	回) ・心のアンケートを通して、いじめを訴えた生徒の把握と迅速な対応	B	12%で目標の15%未満を達成することができた。目標達成については、心のアンケートの実施及び迅速な対応の結果だと考えられる。また、昨年度の熊本県の心のアンケートの集計結果を周知したことで、いじめの未然防止の意識が高まったと考えられる。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災教育	生徒・保護者・職員の防災に対する意識の向上	評価アンケート「防災教育の積極的な実施」上位評価割合 96%[生徒]、95%[保護者]、85%[職員]の維持	・防災通信の内容精選と発行 ・生徒防災委員会の定期的活動 ・防災 LHR の各学年職員と生徒防災委員の事前研修の実施	C	・アンケート上位評価割合は 95%[生徒]、90%[保護者]、85%[職員]だった。 ・コロナ感染予防のため東日本大震災メモリアル day などの先進校視察が出来ず、十分に防災リーダーを育成出来なかった。
		防災教育・避難訓練の内容の充実	評価アンケート「災害時の適切な行動の理解」上位評価割合 97%[生徒]、90%[職員]の着実な維持	・防災教育・避難訓練の内容・方法の再検討 (令和2年度より1回実施に変更)	C	・アンケート上位評価割合は 92%[生徒]、85%[職員]だった。 ・防災教育ではコロナ感染予防を踏まえて、従来行っている生徒主体のグループ活動と同等の代替案を作成する必要がある。
	学校運営協議会	今年度より防災型から総合型に変更し、協議会の運営を確立する。	・協議会を各学期1回計3回実施する。 ・学校評価について、協議会で審議する。	・協議会の委員を、地域代表・地元中学校長・有識者・保護者代表・本校校長とする。	B	総合型の1年目であったが、委員全員の出席のもとで、予定した議題について有意義な協議ができた。
コースの特色	国際コース	語学や異国文化、国際的関心の深化	評価アンケート「国際コースの特色を活かした授業や活動の実施」上位評価割合 80%以上[国際コース生徒・保護者]	・海外からの訪問団体の対応・交流 ・オーストラリアからの生徒との交流 ・各種研修プログラムの活用 ・資格試験の受験奨励・対策	C	オーストラリア及び台湾からの学校訪問、台湾修学旅行、イングリッシュキャンプなど、コースの大きな行事が全て中止となり、国際交流が不十分となった。しかし、その中で英語コミュニケーションスキル研修や JICA 職員による講話をオンラインで実施することができ、今後の各行事

						の実施形態の参考となった。
	理数コース	自然科学や社会における産業技術等への探究	評価アンケート「理数コースの特色を活かした授業や活動の実施」上位評価割合80%以上[理数コース生徒・保護者]	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「科学研究」の充実 ・大学の出前講義等による科学への興味・関心の高揚 ・科学系コンテストや研究発表会、数学検定等への参加の奨励 	C	コロナ禍でサイエンスキャンプ等による大学の模擬授業の実施、検定やコンテストへの参加が十分にできなかった。科学研究については他校の課題研究と同じように中間発表・最終発表を実施することにより、各班の研究内容の充実を図ることができた。
生徒理解・教育相談・特別支援教育	生徒の理解および支援の充実	生徒の理解や支援における職員間の連携強化	評価アンケート「生徒理解のための職員間の連携」上位評価割合90%以上[職員]	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する生徒について、担任・学年主任、教科担任、部活動顧問、関係分掌からの情報収集 ・支援対象生徒に関わる職員で形成するチーム会議における情報の共有と支援分担の確認 	C	アンケート上位評価割合は89.9%で目標を下回った。目標達成に至らなかった理由としては、支援対象生徒に関係する職員間の連携が、チーム会議の開催数不足により徹底できなかったことが考えられる。
		教育相談や特別支援教育に関する教員の資質向上	評価アンケート「支援や配慮を要する生徒に係る研修」上位評価割合90%以上[職員]	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を年2回開催 ・校外研修案内の周知と受講促進 	C	アンケート上位評価割合は89.7%で目標を下回った。目標達成に至らなかった理由としては、校外研修の減少により受講できなかったことが考えられる。
健康教育	生活習慣の確立	特に、食生活において三食摂取し、バランスのよい食生活を心がけているか。	評価アンケート「朝食の摂取と食生活のバランス」上位評価割合90%以上[生徒] 評価アンケート「三食の摂取と規則正しい生活」上位評価割合90%以上[保護者]	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食の重要性、また栄養バランスと学習や運動能力の関係などを保健便りに掲載する。 ・健康教育部会主催の生徒健康研修会(食生活関係)に参加する。 	B	「朝食の摂取と食生活のバランス」については、保健便りはもとより、家庭科・保健の授業においても指導することにより、91%で目標値を達成できた。保健委員は生徒保健委員連絡協議会に参加し、食生活の大切さについて学ぶことができた。保護者評価目標値90%は達成した。
	心身の健康や安全に	新型コロナウイルス感染症防止対	評価アンケート「心身の健康や安全に関	保健委員が中心に取り組み、文化祭におい		保健委員の取り組みを文化祭で発表する事ができずに目標値を下回

	関する十分な指導	策ができて いるか。	する十分な指 導」上位評価 割合92%以上 [生徒]	て生徒全員に 発表を行う。	C	った(91%)が、あらゆる 場面で感染症対策は実 施できた。
	安全管理体制の確立	施設は安全 であると安心 できるか。	評価アンケー ト「施設は整 備・点検され ていて安全」 上位評価割合 90%以上[生 徒]	安全点検を昨 年度より早期 に行い、緊急度 の高い事柄か ら改善を行う。	C	新型コロナウイルス感 染症の影響により、施 設の整備・点検が定期 的に実施することがで きず、目標値を下回っ た(86%)。
		緊急時の対 応が確立さ れているか。	評価アンケー ト「緊急時の 安全確保のた めの役割自 覚」上位評価 割合が90%以 上[職員]	職員研修とし て「救急救命講 習会」を実施 及び生徒理解 研修において、 個別の対応を 確認する。	C	「救急救命講習会」を 例年実施できていたが 今年度はできず、88.1% という結果であった。 生徒理解研修では、個 別対応の確認はでき た。
環境教育	整理整頓、清掃の促進	整理整頓及 び清掃を意 識し、毎日、 掃除に取り 組んでいる か。	評価アンケー ト「掃除への 取組」上位評 価割合が92% 以上[生徒]	委員会活動に よる環境掃除 チェック及び 掃除時間以外 での清掃活動 を行う。	B	環境掃除チェックを実 施したことにより、清 掃活動の意識が高ま り、目標値を上回る (96%)ことができた。
	環境教育の充実	環境問題を 意識した行 動をとるこ とができ ているか。	・学校版 I S Oの目標を掲 げる。また、照 明・エアコン のスイッチを 利用していな く時には、必ず 切る。	環境美化委員 が作成する便 りに、環境資源 問題などを掲 載し、電気の無 駄使いを少な くする。	C	教室等での学校版 I S O目標を掲げることが できたが、環境美化委 員が作成する環境問題 とする便りの発行がで きなかつた。
図書館教育	読書センターとしての機能充実	読書習慣の 確立	貸出冊数の増 加(目標値:生 徒一人あたり の年間貸出冊 数 3.8 冊以上/ 年)	全職員の共通 認識の下での 朝読書指導	B	朝読書は全クラスで行 うことができた。しか しコロナ禍で前年度の ような生徒を誘う活動 は控えざるをえなかつ たので生徒一人あたり の貸出冊数は 3.0 冊 だった。青少年読書感 想文全国コンクール県 審査には1年生が最優 秀賞に輝いた。
		生徒、職員 が利用しや すい読書セ ンターとし ての図書館 づくり	図書館来館者 の増加 (目標値:年 間来館者 3,000人以上)	・図書館報(年 2回発行)、図 書館だより(年 10回発行)によ る読書啓発 ・図書館内の装 飾や館外掲示 による誘い	B	換気等には十分配慮し たが、図書館の構造上 密になりやすいので、 館への誘いは極力控え た。4・5月は休校であ ったがこれまでの来館 者は 4,138 人であった (1月29日現在)。東稜

				<ul style="list-style-type: none"> ・上映会・企画展示等図書委員会活動の活性化と企画の充実 		<p>ライブラリーシネマは、感染対策を施し生徒の自主的運営と視聴後に参加者同士で意見交換とができ、新たな図書館利用者の開拓に繋がった。「東稜賛歌」の作曲者服部克久先生の追悼企画を校内放送や館内の展示コーナーで行った。</p>
学習センターとしての機能充実	各部、各学年、各教科との連携	図書館利用授業時数の増加（目標値：年間 60 時間以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的、組織的に蔵書バランスに配慮した選書の継続 ・部、学年、教科と連携した必要資料の事前準備 ・学級文庫設置 ・(各分野ごとの)ブックリスト学級配布 ・レファレンス充実 	B	<p>図書館の窓は教室のように開けることはできないので、感染予防のため、今年度は利用を減らした。図書館利用授業は 66 時間。感染源となつてはいけなないので目標値を定めることは難しい。また、進路他の部署と連携して必要資料の準備に当たった。大学入試のリモート受験があり、本校図書館を貸切にして、受験生をバックアップし、合格に繋げることができた。3 年生各クラスには分野別ブックリストを配布した。1・2 年生にはそのリストをわかりやすくしたリストを配布した。</p>	
	生徒、職員が利用しやすい学習センターとしての図書館づくり	テーマ展示コーナーの充実(年間 12 回以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・考査前 1 週間の開館時間延長 ・図書館終礼 ・机配置の工夫 ・感染症予防 		B	<p>テーマ展示は 15 回、考査前に限らず開館時間を延長して生徒の学習意欲を助長した。3 年生の利用は、評価アンケートによれば「よく利用する」がこの 3 年間で最高の 20%であった。図書館終礼は 1 学年を中心に行われた。感染症対策として、毎日の机・ドアノブの消毒、入退館時の手指消毒、常時換気、隣りの人と席を空けて座る表示・飛沫防止パーティションの設置を行った。</p>

	アーカイブズセンターとしての機能充実	東稜高校の歩みを物語る貴重な歴史資料の収集・保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・東稜高校アーカイブズを開館し、館長を置く。 ・東稜高校アーカイブズ規程の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係部署との連携 ・開館イベントの開催 ・生徒図書委員会の活動活性化 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>全国初のレベルの高い「(高校)アーカイブズ規程」を作成したが、今年度の承認・施行には至らなかった。代わりに日本の高校初の「アーカイブズ委員会」が次年度から設置されることが正式決定した。文化祭から12月まで「東稜高校アーカイブズ」の展示を行い、授業等でも活用した。評価アンケートによれば、「誇るべき校風・伝統づくりに努力している」に「よく当てはまる」と回答した生徒が1・3年生で約30名ずつ増えた。中性紙の保存箱の利用など保存に向けての態勢が整ってきた。熊本市地区生徒図書委員研修会では、本校図書委員会アーカイブズ班を中心とした主体的な運営・発表・取組に対し赤司友徳先生(九州大学)・各高校引率職員・生徒から絶賛された。</p>
--	--------------------	-----------------------------	--	---	---

<p>4 学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力向上」の「授業を主体とした学力向上の取組」及び「自学力の醸成」に関することが「A」であることは、評価できる。 ・アンケート結果を見渡すと「C」が散見されるが、今年度はコロナ禍という特別な状況であり、仕方のない面もあると思う。 ・特にClassiの活用については素晴らしい取り組みをされている。中学校においても、タブレットが一人一台配付されており、情報ツールを有効活用していきたい。 ・職員アンケートで「いじめ問題に対してしっかりと対応しているか？」という問いに対して、100%「そう思う」と回答できなければならないと思う。
--

<p>5 総合評価</p> <p>【重点目標（5項目）評価】</p> <p>(1) 生徒指導の充実（生活習慣の確立、規範意識の醸成、自己効力感の向上、職員間連携） <u>評価項目数計[8] A[0]B[5]C[3]D[0]</u></p> <p>本重点目標に関する取組においては、8項目中5項目で目標が達成できている。規範意識、情報モラル、交通安全、自主的・主体的活動、生活習慣に関連する取組が評価できる一方で、生徒理解、支援の充実、心身の健康に対する意識に関する項目において評価が低くなっている。</p> <p>【関連小項目：評価】※ ()内は大項目名 「規範意識に関する指導の充実：B、情報モラル教育の充実：B、交通安全教育の徹底および充実：B（</p>
--

生徒指導)」「自主的・主体的な活動の推進：B（生徒の自主性の涵養）」「生徒の理解及び支援の充実：C・C（生徒理解・教育相談・特別支援教育）」「生活習慣の確立：B、心身の健康や安全に関する十分な指導：C（健康教育）」

(2) 学習指導の充実（教科の専門性の向上、実践的授業力の向上、自学力の育成）

評価項目数計[2] A[2]B[0]C[0]D[0]

取組2項目全てで目標が達成できている。学力向上の取組においては、「授業の分かりやすさ」のアンケート項目の評価が大きく向上している。

【関連小項目：評価】※ ()内は大項目名

「授業を主体とした学力向上の取組：A、自学力の醸成：A（学力向上）」

(3) 進路指導の充実（系統的指導の充実、自己実現のための基盤づくり）

評価項目数計[2] A[0]B[1]C[1]D[0]

取組2項目中1項目で目標が達成できている。コロナ禍の中でオープンキャンパスやインターンシップなど、参加が難しいものがあった。

【関連小項目：評価】※ ()内は大項目名

「キャリア教育の充実：B、進路目標の達成：C（キャリア教育・進路指導）」

(4) 学校環境の整備（物的環境の整備、人的環境の整備）

評価項目数計[10] A[2]B[2]C[6]D[0]

取組10項目中4項目で目標が達成できている。業務改善、地域住民・中学生の理解・関心、学校運営協議会、整理整頓に関連する取組が評価できる一方で、生徒・保護者の学校満足度、防災教育、安全管理、環境教育の項目で目標を到達できていない。

【関連小項目：評価】※ ()内は大項目名

「学校改革の推進：C・A、開かれた学校づくり：C・A（学校経営）」「防災教育：C・C、学校運営協議会：B（地域連携・コミュニティ・スクールなど）」「安全管理体制の確立：C（健康教育）」「整理整頓、清掃の促進：B、環境教育の充実：C（環境教育）」

(5) 豊かな人間性の涵養（個性の伸長、多様性の理解と共生、読書の習慣化）

評価項目数計[11] A[1]B[7]C[3]D[0]

取組11項目中8項目で目標が達成できている。人権教育、いじめ防止、図書館教育に関連する取組が評価できる一方で、人権尊重の精神に立った学校づくり、コースの特色に関連する項目で目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※ ()内は大項目名

「人権尊重の精神に立った学校づくり：C、人としての在り方・生き方に対する自覚の深化：B（人権教育の推進）」「命を大切にすることを育む：B・B（いじめの防止等）」「国際コース：C、理数コース：C（コースの特色）」「読書センターとしての機能の充実：B・B、学習センターとしての機能の充実：B・B」「アーカイブズセンターとしての機能充実：A（図書館教育）」

6 次年度への課題・改善方策

評価項目全33項目中、目標が達成できたのは20項目（61%）、達成に至らなかったのは13項目（39%）であり、昨年度の目標が達成できた（44%）、達成に至らなかった（56%）から改善された。しかし、目標が達成できた20項目の内訳はAが5項目、Bが15項目であり、十分に達成できたとは言い難い。さらに、ほとんどの大項目に目標を達成できていない小項目があり、これらについては、関係する分掌部等でその原因を明らかにし、対策を講じていく必要がある。

学校評価アンケートの前年度との比較は、生徒では33項目中24項目（73%）、保護者では32項目中0項目（0%）、職員では33項目中26項目（79%）で前年度評価を上回っている。保護者の評価が前年度を大きく下回っているのは、コロナ禍で学校行事が中止となり、学校へ足を運ぶ機会が大きく減ったことが原因と考えられる。一方、生徒及び職員の評価が前年度を上回ったのは、コロナ禍の中でも地道に教育活動が行われた結果だと考えられる。